社会課題に挑む工学的思考と実践知の育成プログラム

Social Challenge-Oriented Practical Engineering Program (SCOPE 2027)

ケニア短期海外研修 / 参加者募集

2027 年 2 月に、ケニアにおいて「SCOPE 2027」短期海外研修プログラムを実施する予定です（募集人数：3〜4 名程度）。

本プログラムでは、バイオロギング技術、野生動物保全、再生可能エネルギー（太陽光・水素・地熱）、持続可能な開発などをテーマに、研究セミナーやフィールドワークを通じて、ケニアが直面する社会・環境課題と工学技術による解決策について体験的に学びます。また、現地ではシンガポール国立大学（NUS）、ナイロビ大学（UoN）、ジョモ・ケニヤッタ農工大学（JKUAT）の学生・研究者との交流や合同活動を通じて、野生動物保全や再生可能エネルギーに関する先端的な研究に触れ、国際的な視点から社会課題とその解決策について考えます。

所属学部・研究科や専門分野を問わず、名古屋大学の学部生及び大学院生を対象とします。留学生及び単位認定を希望しない学生も参加申込が可能です。JASSO 奨学金は、日本国籍を有する者または日本への永住が許可されている者（特別永住者を含む）が対象です。

参加に興味のある方は、お早めに下記フォームからご登録ください。

応募フォーム：Please fill out this form

チラシ： https://nuss.nagoya-u.ac.jp/s/d7FstHDaMqCXEzN

参加希望者については、教務課にて成績評価係数等を確認のうえ、奨学金の対象者を決定する予定です。

提出情報： 氏名、学生番号、学年、所属学部・研究科

研修概要（案）

- 予定日程： 2027 年 2 月 17 日または 18 日出発〜2 月 28 日または 3 月 1 日ケニア出発
- 訪問先： ケニア（ナイロビ、ナイバシャ、ナクル周辺、Ol Pejeta Conservancy 等）
- 対象： 名古屋大学の学部生及び大学院生（所属学部・研究科、専門分野は問いません）
- 募集人数： 3〜4 名程度
- 研修テーマ： Engineering for Wildlife Conservation, Renewable Energy and Sustainable Development
- 交流大学： シンガポール国立大学（NUS）、ナイロビ大学（UoN）、ジョモ・ケニヤッタ農工大学（JKUAT）
- 単位認定： 学部生は「国際プロジェクト演習」、大学院生は「国際プロジェクト特別演習」と

して、2027 年度に 2 単位を認定予定（所定の研修及び課題を修了することが条件。詳細調整中）

- 単位認定を受けない学生： B4・MC2 等、単位認定の対象とならない学生または単位認定を希望しない学生も参加可能です。ただし、所定の研修及び課題には参加する必要があります。
- 奨学金枠： 調整中（募集人数と異なる場合があります）
- 奨学金： 1 名当たり 110,000 円を予定（JASSO の成績評価係数が 3 点満点中 2.30 以上であること等、所定の要件を満たし、日本国籍を有する者または日本への永住が許可されている者（特別永住者を含む）が対象）
- 留学生の参加： 留学生も参加申込が可能です。ただし、JASSO 奨学金は、日本国籍を有する者または日本への永住が許可されている者（特別永住者を含む）が対象です。
- 概算費用： 約 360,000 円（奨学金受給の場合、自己負担額は約 250,000 円見込み）
- 宿泊： ホテル・ロッジ等（相部屋を予定）

主な学習テーマ

- Biologging & Smart Wildlife Monitoring：GPS・IoT センサー、AI 等を活用した野生動物の行動追跡、データ収集・解析、保全モニタリング技術
- Wildlife Conservation & Biodiversity：野生動物保全、生物多様性、生態系管理、人間と野生動物の共存
- Renewable Energy & Green Hydrogen： 太陽光発電、水素・グリーンアンモニア技術、地熱エネルギー、持続可能なエネルギーシステム
- Environmental Sustainability：グレートリフトバレーの自然環境、湖沼生態系、火山地形、気候変動と環境保全
- International Collaboration： NUS 及びケニアの大学生・研究者との交流、合同フィールドワーク、国際的な視点からの課題発見と解決策の検討

研修日程（案）

出発前 | 名古屋・オンライン

- 事前オリエンテーション及び事前学習、NUS との合同事前説明会（2027 年 1 月中旬予定）

2 月 17 日または 18 日出発 | 日本からケニアへ

- 日本出発、ナイロビ到着、現地オリエンテーション

2 月 19 日～帰国前日 | 現地活動

- NUS との合同フィールドワーク・学生交流： ナイバシャ湖周辺や Ol Pejeta Conservancy 等での合同活動、現地講義、学生間の意見交換
- 現地大学訪問・研究セミナー： ナイロビ大学（UoN）、ジョモ・ケニヤッタ農工大学（JKUAT）

での研究交流・学生交流

- 野生動物保全・バイオロギング： Ol Pejeta Conservancy における野生動物の行動追跡、GPS・IoT・AI 等を活用したモニタリング技術、保全活動に関するフィールドワーク
- 再生可能エネルギー： 太陽電池、水素技術、地熱発電、グリーンアンモニア等に関する研究交流、関連施設の見学（施設見学は検討中）
- 自然環境・生態系フィールドワーク： グレートリフトバレー、ナイバシャ湖、Hell's Gate National Park 等における環境調査、火山地形・地熱環境の観察
- 関係機関訪問： 関係機関との交流（調整中）
- 研修成果の振り返り： 現地での学習成果の整理、学生間の意見交換

2 月 28 日（または 3 月 1 日）| ケニアから日本へ

- ケニア出発、日本へ帰国（航空便により帰国日が翌日となる可能性があります）

※上記の日程、訪問先、研修内容及び費用等は現時点での案です。航空券の手配状況や現地受入先との調整等により、変更となる可能性があります。

応募について

応募締切：2026 年 11 月 25 日（水）

※応募状況によっては、締切日前に募集を終了する場合があります。

本プログラムに興味のある学生の皆さんの応募を歓迎します。所属学部・研究科や専門分野を問わず、ぜひ積極的にご応募ください。

相談・問い合わせ先

レレイト・エマニュエル
名古屋大学大学院工学研究科・講師
Email: leleito@nagoya-u.jp